

意思決定力の伸長を目指す社会科授業の構築

—多面的・多角的な視点を重視して—

教職実践基礎領域

勝寄葵

I はじめに

社会科教育の最終的な目標は「公民的資質の基礎を養う」(1)ことである。このことは、1968年から現在に至るまで、学習指導要領に明記され続けている目標であり、社会科教育における究極の目標であると言える。私は、この公民的資質は人が社会を担う国民の一人として、社会のために行動しようとすることを指していると考ええる。この資質を育てるためには、社会についての知識を身に付けて、理解するだけでなく、学習した内容を活用して社会の抱える課題と向き合い、社会参画の意識を高めていくことが重要である。

近年、中央教育審議会答申や教育課程企画特別部会において意思決定の力が注目されつつある。意思決定力は社会事象を身近に捉え、その上で「自分ならどうするか」と課題に対する自らの意思を決定し、公民としての自覚をもって行動する力とも言える。本稿では、生徒達がこれからの社会を生きる上で重要な意思決定力に着目し、この力を伸ばすための社会科の授業づくりに焦点を当て、教師力向上実習Ⅰ・Ⅱにおいて多面的・多角的視点を重視していった取り組みの成果を報告する。

II 主題設定の理由

1. 今日的教育課題

2016年8月に出された教育課程企画特別部会における「論点整理」では、「特にこれからの時代に求められる資質・能力」として、「適切な判断・意思決定」(2)を挙げている。変化の激しい現代社会では、課題解決の際、最も適切な方法を判断、意思決定する力が、多種多様な価値が存在する社会を生き抜く中で必要な力となる。そのため、学校教育の中でも様々な価値観に触れ、最も合理的な課題解決方法について考える力を育成することが大切である。

また、現代の子どもたちの現状と課題に「判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることなどについては課題が指摘されている。……学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自らの能力を引き出し、学習したことを生活や社会の中の課題解決に生かしていくという面には課題がある。」(中央教育審議会答申)(3)ということが挙げられている。この背景には、情報化が進み、日頃から多くの情報に触れる機会が多い現代の子どもたちは、手に入れた情報の意味を吟味したり、文章の構成や内容を的確

に捉えたりせずに受容するのみになっていることが関係していると考えられる。

多くの情報に触れられる時代だからこそ、他者の考えを受容し、情報を集める力が身に付いている子どもは多くいると考えられる。その反面、自らの考えを根拠をもって表現する力は十分身に付いていないのではないかと考えられる。資料から読み取った情報を適切に判断し、自らの考えを表現するには、手に入れた情報の意味を吟味し、その複数の情報を比較した上で判断の根拠や理由を明確にすることが重要である。

現代の子どもたちが抱える課題を踏まえ、これからの社会科教育では、公民的資質の基礎を養うために、根拠や理由を明らかにして自らの考えを表現する力を育む授業を通して、適切に判断・意思決定する資質・能力を伸長することが求められる。

2. 研究主題について

波巖は「立場が違えば、求める答え(判断)もそれぞれ違ってくる」とした上で、「一つの立場だけを正答とすると、他の立場は誤りとなってしまう。つまり、限られた正答だけを求める従来のような問題解決活動では決して問題の解決には至らない」(4)と示した。そして、「現代社会は、これまでの問題解決学習の先に、もうひとつの新しい問題解決学習を必要としている。それは、(略)価値判断(意思決定)や実践行動を含んだ問題解決学習である。」(5)と価値判断、意思決定を行う学習を展開することの重要性を示した。「どんな立場の人が居るか、どんな観点があるのか」と多面的・多角的な視点で考え、複数の価値観を交流させることで、判断、合意を形成する活動で得られる力は現代社会において非常に重要視されると思われる。また、この活動によって、一つの答えに定まらない、複数の答えを公正に判断し、自らの考えを明確にして意思決定する力を身に付けることができるようになるのではないかと考えた。

子どもが社会において公正に判断・意思決定する力を身に付けるためにはまず、自らの考えを明確にすることが重要である。そして、様々な考えを受容することに加え、他者の考えと自らの考えの価値観を交流させ、最も合理的な考えを根拠をもって決定する力を育成することも重要であると考えられる。また、この意思決定の活動を経て高められた社会参画の意識は、実際に行動しようとする意欲を引き出すことが期待される。そのため、意思決定力を伸ばすことは公民的資質の基

礎を養う上で大変重要と考える。

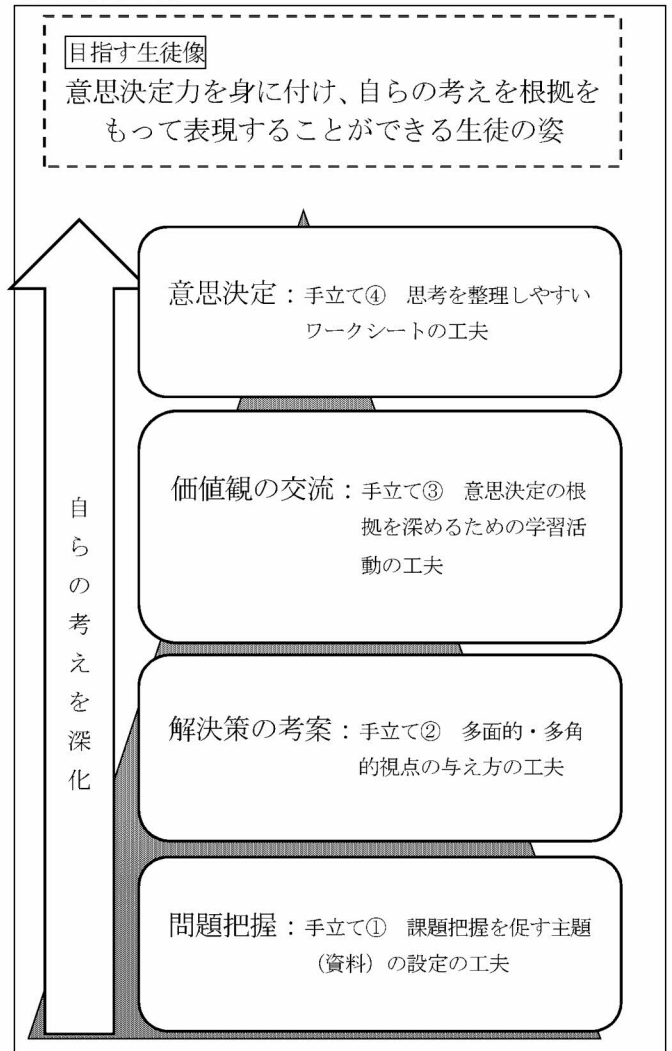
1960年代後半に起こったアメリカの社会科教育の改革にみられる方法論の一つ、意思決定アプローチの有効性に着目した小原友行は、意思決定を「問題場面での自己の行為を科学的な事実認識を反省的に吟味された価値判断に基づいて選択・決定する活動」(1994) (6)とした。小原はこの活動を①問題の把握②達成すべき目的・目標の明確化③全ての実行可能な解決策(行動案)の作成④解決策(行動案)の論理的結果の予測⑤解決策の選択と根拠づけ⑥決定に基づく行動、の6つの過程で示している。目標・目的を捉えこれを追求する形で、解決策(行動案)を作成する過程が設けられていると感じる。特に、⑤の過程では根拠づけが行われるため、意思決定における自らの判断を総合的に振り返ることで、根拠をもった具体的な考えを表現することができると思う。

また、同様に意思決定アプローチの有効性に着目して研究を行った魚住忠久は意思決定学習(7)を開発した。六角英彰この方法を用い、実践を行い、児童の意思決定力の伸長を目指した。この学習方法は、小学校の段階に合わせた①問題の明確化②立案③意思の決定④実行⑤評価・反省の5段階からなる意思決定過程を含んでいる活動である。教材、教材や児童の必要感から問題場面が設定されるため、児童が主体的に意思決定を行い、実行することができる学習方法と感じる。

小原が課題意識を高め、解決策を追究する姿勢を重視した意思決定の活動を提唱しているのに対し、魚住は意思決定後に実際に行動する、実行の段階に重きを置いている。六角は魚住の意思決定学習について、「意思決定したことを行動に移してみることで、子どもたちの意思決定内容に責任を取らせるというねらいがある」(8)とし、自らの考え、それに基づいた行動に責任感をもたせることで、行動に結びつく具体的な解決策を意思決定させようとしたと述べている。また、一つの意思決定学習で得た成果を次の意思決定学習に繋げ、繰り返し行う中で意思決定力を高めようとするのも魚住の提唱する意思決定学習の特徴として挙げている。

本実践では、小原の提唱する解決策を追究しようとするための思考の深化を重視した意思決定力の考え方を土台に、意思決定の結果を次の活動に繋ぎ、繰り返し行うことで意思決定力の伸長を目指す魚住の意思決定学習の要素を加えた活動を行った。意思決定は、根拠や理由を明らかにしながら公正に判断する能力と態度を身に付けさせ、また、自由な発想、柔軟な考え方を子どもから引き出すことが期待できる活動である。そのため、資料等を基に「より望ましい」と根拠を明確に判断、決定させる活動を含む意思決定力の伸長を目指した実践を繰り返し行って、現代の子どもの抱える課題の解決を目指そうと考え、研究主題を意思決定能力の伸長を目指す社会科授業の構築と設定した。

【研究構想図】



Ⅲ 実践の方法

1. 実践の目的

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(2017) (9)の中で、社会科の現行学習指導要領の課題として「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分」であることが指摘されている。資料を多面的・多角的に考察する力を身に付けることは、生徒が自らの考えの根拠や理由を明確にもつことができるようになるだけでなく、社会事象に関する知識や理解を深める上でも重要となる。資料を活用し、それらを基に自らの考えを明らかにさせる活動により、根拠や理由を明らかにして意思決定をすることができるようになると思う。公正に判断する能力と態度を養うためには、客観的な思考に基づいた様々な価値観と交流させ、多面的・多角的に考察した上で、判断させる活動が必要である。更に、資料を様々な観点から捉え、読み取った結果を根拠に考えを深化させる活動は、多面的・多角的視点を養うことにも繋がる。このこと

から、生徒達が自らの考えを根拠をもって意思決定するには、資料を多面的・多角的視点から捉える活動が必要不可欠と考え、このことを副題として設定した。

以上を踏まえ、本実践では、次の2点を達成することを目的とした。1点目は、生徒達が考えたことの理由の根拠を明確に表現できるようになることである。各授業提示される意思決定課題について、根拠となる資料や社会的事実を活用して意思決定できる姿を目指した。これを達成するために、教師力向上実習Ⅰ・Ⅱで具体的な実践の手立てを4つ示した。2点目は、意思決定力の伸長を目指す授業の枠組みを構築し、今後の実践に繋ぐ成果を残すことである。本実践では、ほぼ全ての授業で①社会的事実を資料を基に捉える②社会的事実についての考えを深める③本時の活動で得た情報を基に意思決定をする、という流れを組んでいる。そして、単元のまとめで各授業で行った意思決定の内容を基に、これまでの活動を総合的に振り返って最終意思決定を行わせた。資料や価値観を交流する中で得た情報に加え、各授業での自らの意思決定内容も最終意思決定の判断材料として活用し、様々な観点から課題を追究できるようにした。そして、単元を通して意思決定を繰り返し行うことで、意思決定力の伸長を目指す授業の枠組みの構築を目指した。

2. 生徒の実態・目指す生徒像

実習校の生徒たちは社会科の授業の中で、教科書や資料を使って調べたことを答えるような、答えが明確な問いには積極的に答えることができていた。しかし、「なぜそう思うのか」「どうして(グラフ等が)このような結果になっているのか予想する」といった、答えが一つに決まらない問いかけには、ほとんどの生徒が挙手することができず、多くの生徒が苦手意識をもっていると感じた。生徒の実態を把握するために行ったアンケートの結果、「グラフやデータなどの資料を読み取ることは難しい」に対し、「思う」「やや思う」と回答した生徒は27人中11人であり、「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒は16人(グラフ①)と半数以上が資料を読み取ることに苦手意識を感じていないことが分かった。ではなぜ、資料を読み取った結果を予測したり資料から読み取れることを繋ぎ合わせて解答したりすることが苦手なのか。「他の人に自分の考えを伝えることが苦手だ」に対して「思う」「やや思う」と回答した生徒が、27人中15人(グラフ①)と自分の考えを他者に伝えることに苦手意識をもっている生徒が半数近くいることが関係していると考えた。多くの生徒が他者に自らの考えを表現することが苦手と感じているために、答えが1つに決まらない問いに答えられない姿が見られたと思われる。

授業以外の場面でも、自分の考えを主張することができない生徒の姿があった。文化祭の表紙絵を決める際、「これが人気ありそう。みんなが選びそう」「これ

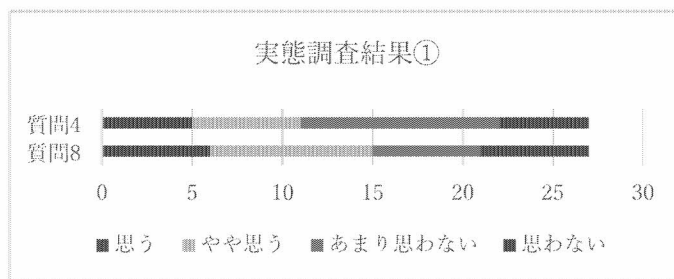
がいいと思うけど、どうせあれに決まるでしょ」という理由で自らの考えを変更してしまった生徒がいた。他にも、学級で目標を考える活動では、ある班が格好良い目標を発表すると、他の班の生徒たちは自分たちが熟考して出した案をすぐに取り下げ、その班の考えに賛同する姿があった。

上記のような姿から、生徒達は資料等から数値等の事実を捉えることはできるが、授業の内外を問わず自分なりの考えを導き他者に伝えることを苦手としていると推測できる。自分の考えの根拠を明確に表現するためには、社会科の授業を活用し、資料を根拠に自らの考えを選択・決定する活動を行う必要性を感じた。根拠を明確に自分の考えを表現する活動は、生徒たちの抱える課題の解決を目指すことができる。また、社会問題に対する解決策を自ら選択・決定することで、社会の一員として社会に参画する姿勢を身に付けることができ、公民的資質の基礎を養うことにも繋がる。

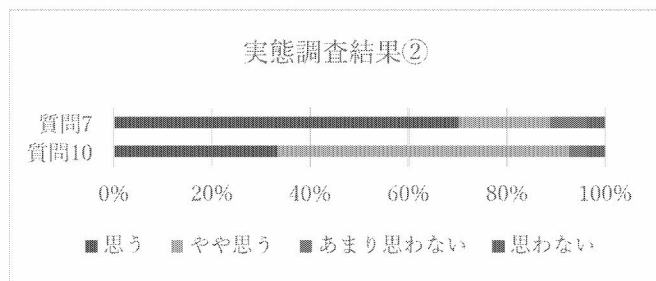
工夫として、生徒たちが他者の考えに流されないよう、生徒個人の感情や経験など主観ではなく、客観的な情報に基づいて多面的・多角的に考察を行う活動を仕組む必要がある。また、他者の考えに流されることなく自らの考えを表現する力は、社会科の授業に留まらず多様な場面で活用することができるだろう。意思決定力の伸長を目指す社会科授業研究を行うことで、生徒が自らの考えの根拠を明確にもち、他者の価値観と交流しながら主体的により良いと思われる選択ができる姿を目指したいと考えた。

実態調査として行ったアンケートの結果、「質問7 グループで何かを考えたり、調べたりする活動が好きだ。」という項目について、27人中24人の生徒が「思う」「やや思う」と回答している。(グラフ②)また、「質問10 課題を解決する際に、色々な人の考えを参考にする。」という項目では25人の生徒が「思う」「やや思う」と回答した。(グラフ②)以上から、生徒達は、他者と協働して取り組む活動が好きであり、課題解決のために他者の言葉を参考にすることが分かった。そのため、意思決定をする際にグループで考えを深める学習活動を取り入れ、自らの考えと他者の考えを交流させながら意思決定できるようにした。これにより、生徒達は抵抗なく意思決定を含む一連の活動に取り組むことができると考え、本実践に取り入れることとした。

【グラフ① 実態調査結果①】



【グラフ② 実態調査結果②】



(調査対象：名古屋市立公立中学校 第2学年 27人
平成29年度9月22日実施)

3. 本研究の手立て

教師力向上実習Ⅰ・Ⅱを通して意思決定力の伸長を目指すために4つの手だてを重視した。

手立て① 課題把握を促す主題(資料)の設定の工夫

授業で扱う主題(資料)の特徴を掴ませることで、課題の把握を容易にし、考えを焦点化させることができる。何を題材として取り上げるのか、何を捉えさせるのか、特徴を捉えやすい資料を使って授業を行い、生徒の課題把握を促す工夫を行った。

手立て② 多面的・多角的視点の与え方の工夫

資料を根拠に自らの考えを明らかにさせるには、その資料を多面的・多角的に捉えて吟味する必要がある。この資料のどのような特徴を基に考えたのか、様々な視点から考えることで考えを深め、より確固とした根拠にすることができるようになる。そのため、生徒が様々な考えをもてるよう、考えの視点の与え方に工夫を取り入れた。

手立て③ 意思決定の根拠を深めるための学習活動の工夫

自分たちで思考を巡らして具体的な解決案を作成し、それを自分なりの視点から評価する活動を行うことによって、最終意思決定の場面で根拠を明確にして自らの考えを意思決定できるようにした。課題に対する理解を深め、他の生徒の意見と自分の考えを合わせながら「最も合理的と考えられる案」を作成した後、他のグループの意見に限定して「最も合理的と考えられる案」を意思決定することで、より客観的に分析することができ、この分析の視点が各生徒の意思決定の根拠となる視点となるよう工夫した。

手立て④ 思考を整理しやすいワークシートの工夫

生徒が自らの考えを根拠をもって決定することができるよう、意思決定を思考しやすいワークシートを作成し、これを使って実践を行った。意思決定を行う前に課題に対する自らの考えを明らかにさせたり、徐々に思考が深まる発問を投げ掛けたりして、考えの根拠を明確にできるようにした。

Ⅳ 実践の内容

本実践では、名古屋市立公立中学校において毎回の授業で扱った学習内容を基に意思決定をさせ、資料や他者の考えを踏まえて自らの考えを根拠をもって表現する力の育成を目指した。教師力向上実習Ⅰで行った歴史分野「幕藩体制の確立と鎖国」の単元と教師力向上実習Ⅱで行った地理分野「中国・四国地方」の単元の学習における実践について報告する。以下はその概要である。

教師力向上実習Ⅰ

1. 教師力向上実習Ⅰの単元計画

- ・実習期間：2017年5月8日～6月2日
- ・学年：第2学年 30名(男子16名、女子14名)
- ・教科名：社会科
- ・指導単元：「幕藩体制の確立と鎖国」(全6時間)

1つの単元を貫いて「江戸幕府が強大な力をもつことができた一番の要因」を意思決定する活動を中心に行った。各授業で扱った内容を「江戸幕府のもつ強大な力」の1つとして捉えて最大要因と言えるかを意思決定し、個人、グループで考え、最後に全体で共有し、自分の考えと他者の考えを比較して捉えられるようにした。そして、単元のまとめで、これまでに学習した江戸幕府が行った政策の中から「江戸幕府が強大な力をもつことができた一番の要因」を改めて考え、単元で行った活動を多面的・多角的に振り返りながら判断し、自らの考えを最終意思決定させた。

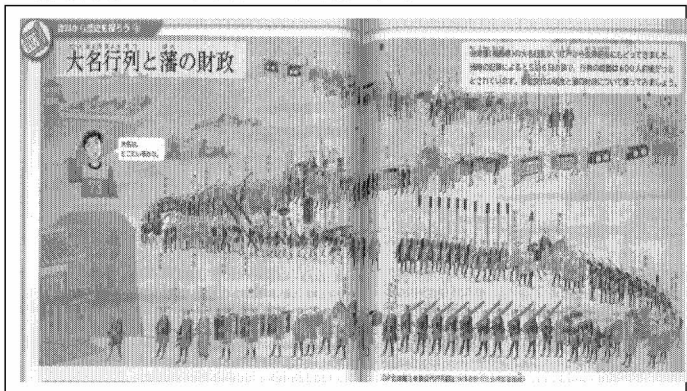
単元名	時数	手立て
泰平の世の土台づくり	1	①④
大名行列と藩の財政	2	①④
東南アジアに広がる日本町	3	①④
開かれた窓	4	①②④
身分ごとに異なる暮らし	5	②④
最終意思決定	6	②④

2. 授業の様子

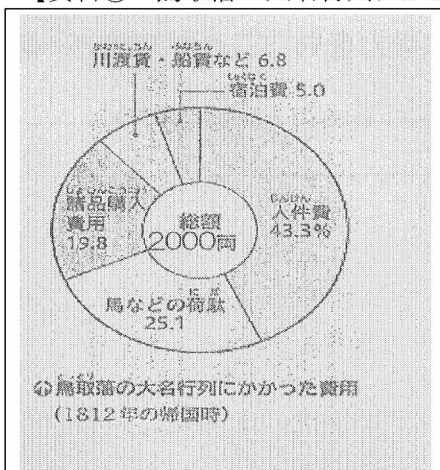
手立て① 資料の特徴を掴ませるための教材化の工夫の場面(2/6時)

第2時「大名行列と参勤交代」では、参勤交代を示す大名行列の資料(資料①)(10)を提示して「長い」「列になっている」「武器を持っている人がいる」「馬に乗っている人がいる」等、資料から読み取れることを次々に挙げさせた。次に、鳥取藩の大名行列にかかった費用(資料②)(11)をグラフを基に実際に計算して出させ、具体的な金額を意識させてから大名行列の資料と合わせて特徴を捉えさせた。2つの資料の特徴から歴史的な事象の特徴を具体的に掴ませることができ、生徒達は、参勤交代の様子について様々な視点から考えを深め、意思決定することができた。

【資料① 大名行列と参勤交代】



【資料② 鳥取藩の大名行列にかかった費用】



手立て② 多面的・多角的視点の提示の工夫の場面 (5/6時)

第5時では、武士、町人、農民、えた・ひにんの人々の暮らしを捉えさせるために、インタビュー形式のワークシート(資料③)(12)(13)を提示した。生徒達は江戸幕府の支配について、支配される側の人々の目線に立った多面的な考え方で当時の人々の暮らしを捉えることができた。また一部の生徒は、江戸幕府の力が人々にどのように影響しているのか「身分の差を作ること」で、幕府にたくさん年貢が入ってきた(財力)、「自分よりも身分が下の人がいるからいいや」と思って反乱をあまり起こさなくなったと思うから(支配力)、「武士がいなければ、戦いの時にだめになっちゃうから武士に特権を与えて、百姓の年貢を分ける」(武力)等、多角的な考え方による視点から考察することができていた。多面的・多角的視点をもって考えられた生徒は、考えに多様性が生まれた。

【資料③ インタビュー形式のワークシート】

《表面》

学習プリント

③幕藩体制の確立と鎮国

組 番 氏名

11 身分ごとに異なる暮らし (教P112, 113)

1. 江戸時代の人々の暮らしの様子を知ろう。

江戸時代の人々にインタビューをしてその暮らしについて教えてもらいました。

私の名前は、S木A助という。このS木という

① 名乗ることができるのは武士の特権なのだ。他にも、立派な刀を腰に差すこと、すなわち

② も武士の証だ。武士には様々な階級があり、家柄に応じて役職や服装が分けられていたんだ。だから、私たちにとって「家」はとても重んじられていたものなんだよ。



武士のA助さん

オラは、B造っていうんだ。オラの家は土地をもって年貢を納めているから、③ と呼ばれているぞ。隣の家は土地を持ってないから、④ だ。オラの父ちゃんは村役人っているのをやってるんだ。村役人は、オラの家みたいな⑤の中から選ばれた、⑥ (庄屋)、組頭、百姓代のごとで、年貢の納入や村の運営をするんだ。そうそう、オラたちの大事な仕事は、米を育てて年貢を納めることだ。⑦ 公⑧ 民 (四公六民の場合もある)の割合で年貢を納めていて、結構大変なんだぞ。あ、でも一人で年貢を納めているわけではなく、5〜6戸で⑨ を組織してみんなで協力して納めているんだ。ただ、連帯責任だから、便利な反面、大変なこともあるけどな。



百姓のB造さん

「大変なこと」とは何だろう？

《裏面》



町人のC太郎さん

僕は、C太郎。町人の両親のもとに生まれたよ。町人には様々な職業があって、大体は江戸などの広い都市に住んでいる者のことを町人と呼ぶんだ。あと、町人はその業種ごとに住んでいることが多いんだ。僕の家は、呉服町にあることから分かる通り、呉服屋を営んでいるよ。町人の中から、③ が選ばれて、町奉行のもとで町の運営するんだよ。かっこいいよね。そうそう、僕の家には修行のために奉公に来ている人もいたんだ。いつか、自分の店をもつんだけ張り切っていたよ。

…私たちは、えた・ひにんと呼ばれています。また、私たちは私たちの職業などの特徴から、社会や文化を支えているはずなのですが、暮らしの上でさまざまな差別を受けています。例えば、あまり他の身分の人たちと関わる機会が少ないような場所に住み、他の身分の人たちとの交流や服装なども制限されています。



雪駄を作っているDさん

手だて④ 意思決定の流れが見やすいワークシートの活用場面 (6/6時)

第6時では、これまでの授業を振り返って「江戸幕府が強大な力をもつことができた最大の要因」を意思決定した。これまでの学習で得た要因を選択させたことにより、生徒達はワークシートや教科書を改めて見直し、単元の学習を振り返って意思決定することができていた。これまでの自らのワークシートを振り返り、

自分は「江戸幕府のもつ強大な力」をどのように捉え、考えてきたか、最も納得のいくものはどれかという視点から改めて意思決定をする生徒や、教科書内容を読み返し、江戸幕府の行ってきた諸政策の内容を比較して意思決定をする生徒がいた。その中から、生徒Aの意思決定の様子を報告する。

【資料④-1 生徒Aの意思決定ワークシート】

私は、参勤交代の制度が江戸幕府が強大な力をもつことができた一番の要因だと、 「 <u>思います</u> 」・「 <u>思いません</u> 」。
理由 この制度により、費用が抑えられ、参勤交代はいいことだと思いました。 参勤交代と参勤交代を繰り返すことができたから。

【資料④-2 生徒Aの意思決定】

私は、身分制をつくったことが江戸幕府が強大な力をもつことができた一番の要因だと、 「 <u>思います</u> 」・「 <u>思いません</u> 」。
理由 身分の差をつけることで、武士にはいいことがないけれど、百姓や町人などには 何も悪いことが起こっていないから。

【資料④-3 生徒Aの最終意思決定】

私は、江戸幕府が強大な力をもつことができた最大の要因は、 ①大名の配置を工夫したこと ②武家諸法度を定めたこと ③参勤交代の制度を定めたこと ④キリスト教を禁止して鎖国政策をとったこと ⑤長崎で貿易の利益と海外の情報を独占したこと ⑥身分制をつくったこと の中で「 <u>④</u> 」だと思います。 なぜなら、 参勤交代や身分制などは、大名や百姓などが互に反乱を起こして乱れるのではないかと 思いました。これに対して、海外の情報を独占することで、他の国ではどこも貿易が できないので、幕府が参勤交代を独占でき、反乱もされにくくなるから。

生徒A(資料④)は、最終意思決定の場面で、これまでの学習の内容を踏まえ、各政策の内容を比較して江戸幕府のもつ強大な力を捉えていた。第1時、第5時の意思決定では資料から読み取った言葉を使って意思決定することができていた。最終意思決定では、これまでの授業のワークシートや教科書を活用し、単元の学習を振り返って整理をすることで、単元の学習の全体像を捉え、更に自らの考えを深めて「江戸幕府がもつ強大な力」を捉えることができていた。また、記述内容から生徒Aは資料などから捉えた歴史的事実を根拠に自らの考えを深化させて意思決定を行ったと読み取ることができ、資料活用が最終意思決定の場面に生かされたことが分かった。

3. 教師力向上実習Ⅰの成果と課題

資料から読み取った事実を基に当時の情勢を推測して考えることができていた点において、資料の特徴を掴ませる工夫である手立て①は効果があったと言える。また、手立て②により、「江戸幕府のもつ強大な力」について、支配を受けていた人々の目線に立った多面的な考え方や強大な力を何と位置付けるか、財力や支配力等の多角的な考え方から最終意思決定を行う姿があった。手立て④では、これまでの学習を整理して意思決定を行うことができ、自らの考えを具体的に表現するために、思考の流れを見やすくすることは効果があ

ることが分かった。

課題として、手立て①では資料の特徴を限定的に掴ませてしまい、以後の授業と関連させて資料を捉えさせることができなかった。生徒が自らの考えを資料を基に具体的に表現できるよう、生徒の思考を深化させる資料、教材を開発、提示することが求められると感じた。手立て②では、多面的・多角的に考えさせる題材が限られてしまった。複数の授業で同一の視点から資料に着目することで、更に思考を深化させて考えることができると考え、単元を通して資料を読み取る際の多面的・多角的視点の与え方の工夫を行う必要がある。手立て④では、生徒が各授業でどのように影響を受け、最終意思決定を行ったのかが捉えにくかった。そのため、生徒が何に着眼して意思決定を行ったのかを捉えやすくし、具体的な評価を行えるワークシートを活用することが大切だと感じた。

4. 教師力向上実習Ⅱに向けて

教師力向上実習Ⅰでは、第1時では自分の考えを書き出せなかった生徒が、グループでの活動を通して繰り返し意思決定を行ったことで、徐々に自らの考えを表現することができるようになった様子があった。しかし、資料をそのまま捉えさせる提示になり、資料から読み取った言葉をそのまま使った意思決定をする生徒の姿があり、資料の特徴を掴み思考を深化させることができなかった。また、資料を多面的・多角的に考察することができた生徒に限られ、より多くの生徒に多面的・多角的視点を与えるため、全体で共有できる視点の与え方の工夫が必要と感じた。意思決定で使用するワークシートは、評価の観点も取り入れ、生徒がどのように意思決定を行ったのかを整理しやすいものにしていきたい。教師力向上実習Ⅰの成果と課題を踏まえ、次の教師力向上実習Ⅱでは、資料を多面的・多角的に捉えられる視点の与え方を重視し、生徒の考えを引き出すための取り組みを行うことにした。そして、資料を考察した結果を比較したり、他の生徒の意見を聞いて自分の考えを見直したりする、考えを深化させるための交流活動の時間を確保した上で、自らの考えを意思決定し、その理由を根拠を明確にもって説明することができるようになりたい。そのため、より自らの考えを見つめ直し、考えを深化させるための学習活動を取り入れる必要があると考えた。学習したことを基に自分たちで「最も合理的と考える解決策」を作成する時間を確保し、この学習活動で得た新たな考えも加えることで、最終意思決定の場面で自らの根拠を深め、具体的に表現する生徒の姿を目指したい。

教師力向上実習Ⅱ

1. 教師力向上実習Ⅱの単元計画

- ・実習期間：2017年9月25日～10月20日
- ・学年：第2学年 30名(男子16名、女子14名)

- ・教科名：社会科
- ・指導単元：「中国・四国地方」（8 時間完了）

意思決定力の伸長を目指すために、毎回の授業で「本時の意思決定」を行わせた。各授業の主な題材を地形、交通、産業等様々な視点から捉え、中国・四国地方の抱える過疎化の課題について切実性をもって追究できるようにした。第6時以降の授業では中国・四国地方の中でも特に人口が少なく、知名度も低いとされる島根県に焦点を当て「島根県の地域おこしプラン」を考案する活動を行った。そして、その中から「最も過疎化の進行を食い止めることができる(合理的な)プラン」を選択し、理由も明確にした意思決定を行った。最終意思決定では、単元の活動を振り返り「過疎化の進行を食い止めるために大切にすべきこと」に対する自らの考えを具体的に表現させた。

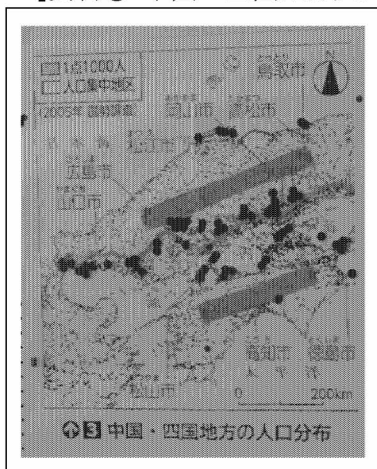
単元名	時数	手立て
人口分布のかたよる地域	1	①②④
中国・四国地方の中心 広島	2	①④
人口減少と地域の悩み	3	①②④
地域おこしの知恵	4	①④
交通網の発達と人口の変化	5	②④
新しい地域おこしの方法を考え、発表する	6・7	①②③
最終意思決定	8	②③④

2. 授業の様子

手立て① 生徒の思考を深化させる資料、教材の開発と提示の工夫の場面（1/8 時）

第1時の「人口分布のかたよる地域」では、中国・四国地方の人口分布の特徴を捉えさせるために、人口分布を示す地図資料に山地、山陽新幹線の路線、工場の分布の資料を付け加える提示の工夫を行った。これにより、生徒達は人口分布の特徴について、考えを深めながら具体的に捉えることができた。(資料⑤)(14)。

【資料⑤ 中国・四国地方人口分布】



本時の意思決定では「中国・四国地方で過疎化が進行している一番の要因」について、「もっと交通が便利で仕事も色々ある大都市に移住する人がいて(略)過疎化が進行しているから」(資料⑥)「交通がととのっていない山地などに住む人々が都心に移住したから」(資料⑦)等、資料を読み取った視点を明らかにして意思決定することができた生徒の姿が見られた。

【資料⑥ 生徒Bのワークシート】

私は、中国・四国地方で過疎化が進行している1番の要因は

もっと住みやすい都市に移住する人が多いこと

だと考えます。

理由は、

もっと交通が便利で仕事も色々ある大都市に移住する人がいて、大都市は人口が増えているが、中国・四国地方などは人口減っている。過疎化が進行しているから。

【資料⑦ 生徒Cのワークシート】

私は、中国・四国地方で過疎化が進行している1番の要因は

交通がととのっていない山地などに住む人々が都心に移住したの

だと考えます。

理由は、

高齢化が住みやすい環境となり、住みやすさを求めているから。

手立て② 資料を読み取る際の、多面的・多角的視点の与え方の工夫の場面（3/8 時）

第1時、3時、5時において、注目して考える視点を表す「視点カード」(資料⑧)を活用し、資料の特徴を捉えるために必要な多面的な視点を全体で共有する工夫を行った。特に、第3時では自然、交通、産業の3つの視点に注目して資料を読み取り、各視点から読み取った結果を基に中国・四国地方の抱える過疎化の課題について具体的に考えられるようにした。

【資料⑧ 視点カード】

自然

交通

産業

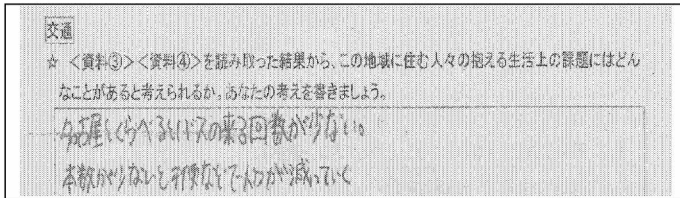
また、各視点に注目して資料の特徴を捉えられるよう、比較、関連しやすい工夫を取り入れて資料を提示した。特に、交通の視点から島根県岩見市(15)と名古屋市のバス時刻表(16)を資料(資料⑨)として提示した際には、同じ形式の時刻表を作成する工夫を行った。

石見交通 波根線 名古屋市交通局 名駅 11 系統
大田バスセンター発 名古屋駅発
時刻表（平日） 時刻表（平日）

6	
7	
8	10
9	
10	00
11	
12	06
13	
14	23
15	
16	11
17	06
18	06
19	
20	
21	
22	

6	20	32	47		
7	0	13	23	33	43
8	54				
8	3	10	16	22	29
	38				
9	0	22	47		
10	7	27	47		
11	7	27	47		
12	7	27	47		
13	7	27	47		
14	7	27	47		
15	7	27	44	57	
16	7	17	32	47	
17	4	18	32	47	
18	6	29	49		
19	12	37			
20	0	25			
21	0	40			
22	16	48			

【資料⑩ 生徒Dのワークシート】



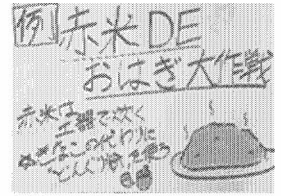
交通

☆ <資料袋> <資料袋>を読み取った結果から、この地域に住む人々の抱える生活上の課題にはどんなことがあると考えられるか、あなたの考えを書きまわそう。

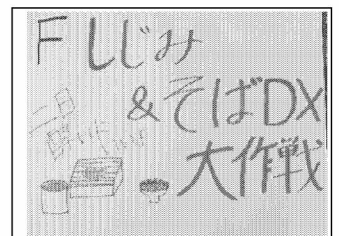
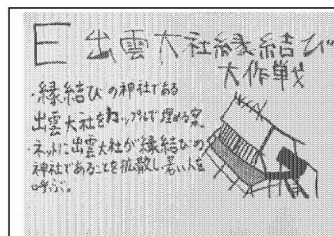
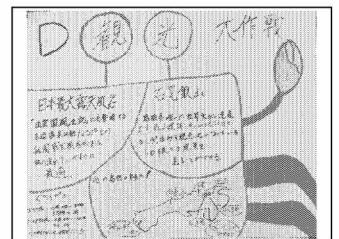
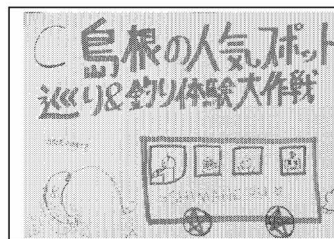
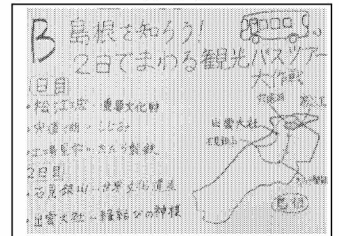
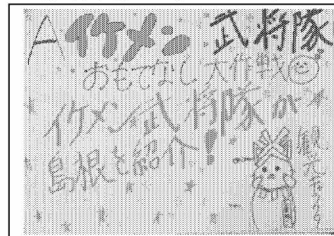
- ・バスが2時間おきしかで、名富と比代を全然走らな。
- ・最後バスが6時を名富城大発
- ・人少減る→本数が減る

手立て③ 意思決定の根拠を深めるための学習活動の工夫の場面 (6・7/8 時)

地域おこし大作戦を考えさせる際、地域おこしに成功した事例を紹介し、大作戦の考案例としてポスターを提示した(資料⑫)(17)。具体的な活動のゴール伝えたため、生徒達は活動の見通しをもって自主的に話し合い活動に取り組むことができた。



【資料⑬ 生徒達が考えた地域おこし大作戦】



– 108 –

で「名古屋のようにおもてなし武将隊をつくる」という考えをもつ生徒と価値観を交流させ、「マスコット」「おもてなし武将隊」という広告塔を掲げてPRする、という共通点に気付くことができた。このような話し合いを経て、「イケメン武将隊おもてなし大作戦」を考案し、更に「どうしたら観光客を集められるか」「何をPRすべきか」を話し合い、深く掘り下げて具体的な大作戦を発表することができた。(資料⑭)

【資料⑭ グループA 生徒Fのワークシート】

☆ 「鳥根県の地域おこしプラン」をグループで考えよう。
①どの視点を重視したプランなのか(複数選択可) ②どのような内容なのか、の2点を明確にして考えよう。

グループ番号: **A**

私たちのグループは、鳥根県の過疎化を食い止めるために、

イケメン武将隊 おもてなし 大作戦

各提案します。

重視した視点は、**「自然」・「文化遺産」・「産業」**です。**(全部)**

<内容>

まず私達は若者が果敢に内におために「イケメン」を使いました。
目的観光地である松本城には武将隊がないので「イケメン武将隊」をつくれれば若いやせがたてこん訪れれると思います。
その武将隊前に鳥根の名所を紹介し、ご当地PRをします。
名所→カッパルが訪れられおぼろ「国領海岸」を紹介。
PR→ご当地の「ほろほろ茶」の利便、火薬そば、松茸をPR

また、生徒達は授業での学習に加えて自分で調べて得た情報や、生活からの経験知を使って地域おこし大作戦を考案し、意思決定を行うことができていた。「インスタ映え」や「ネットを使って拡散」という言葉を使って「若者を呼ぶ」ための視点を自分たちの身近な生活から想起して具体的に考えることができていたグループや、世界遺産等の観光地を取り上げて高齢者を呼ぶ視点や地域の産業に目を付けたグループもあり、多角的に考えて大作戦を考案することができていた。

手立て④ 意思決定評価観点を取り入れたワークシートの活用場面 (8/8時)

教師力向上実習Ⅱでは、毎授業で行う意思決定の活動の中で何を根拠に意思決定を行ったのか、自己評価をつけさせた。資料の読み取り方や自分の意見のまとめ方、意思決定をする際の視点を振り返らせるができ、意思決定で何を根拠とするか捉えられるようにした。また、第8時の最終意思決定では、どの単元の学習を振り返って意思決定を行ったか、その際に注目した視点は何か、単元全体の学習活動を振り返って自己評価をつけさせた。

その中で生徒G(資料⑮)の意思決定の様子について報告する。生徒Gは第1時では、交通の不便さを過疎化が進行している要因の1つに挙げていたが、過疎化を食い止めるにあたってこの視点を重視していなかった。第5時では「地元の人々のために交通網を発達させることが大切」という意思決定をし、過疎化の進行を食い止めることと交通網の発達に関係性を見出すこ

とができた。そして、過疎化を食い止めるために地域おこし大作戦を考案する活動で「地元にある交通機関を利用したバスツアー」を考案した。これらの活動を踏まえ、最終意思決定では、過疎化の進行を食い止めるために「公共の交通手段を観光客に使ってもらうこと」が大切という自らの考えを具体的に表現することができた。自己評価から、4つの活動で学んだことを特に意思決定の根拠にしたことが分かる。ここから、生徒Gは過疎化が進む地域の交通網の不便さや、地方中枢都市の便利さに注目した上で地域おこしのために観光客を活用する方法を意思決定したと評価することができ、意思決定評価観点を取り入れたワークシートによって、生徒の考えの根拠をより詳しく具体的に捉えることができるようになったといえる。

【資料⑮-1 第1時での生徒Gの意思決定】

☆ 他の方の意見も踏まえて、本時の意思決定をしよう。
私は、中国・四国地方で過疎化が進行している1番の要因は

・人口減少が主、交通の便が悪い所が9割、高齢者が多い、

理由は、
・住居が、
・便が悪い所に人が集、
・若者は都会、

だと考えます。

【資料⑮-2 第5時での生徒Gの意思決定】

☆ 本時の活動を振り返りながら自らの考えを意思決定しよう。
私は、過疎化の進行を食い止めるために中国・四国地方の交通網をさらに発展させることにしよう

地元の人々のために交通を発達させることが大切

なぜなら、
新幹線や空港は乗客が中国・四国以外の人々から、通達も止まる＝人が中国・四国に集む、という事だと思ふので、近距離の新幹線がしやう、町にしたらいいと思う。

【資料⑮-3 生徒Gの最終意思決定】

私は、過疎化の進行を食い止めるために、

公共の交通手段を観光客に使ってもらうこと

が大切だと考えます。

なぜなら、
他県から来た観光客に公共の交通手段を使ってもらうこと、交通の便が良くなり、住民も移動しやすくなり、経済的にも発展がみえると思ふから

【資料⑮-4 生徒Gの最終意思決定時の自己評価】

☆ 最終意思決定を振り返って「4」でできた 3. まあまあできた 2. あまりできなかった 1. できなかったの、当てはまる数字を記入しよう。

4	1 人口減少が主、交通の便が悪い所が9割、高齢者が多い、
4	2 中国・四国地方で過疎化が進行している1番の要因は
3	3 人口減少と高齢化が、交通の便が悪い所に人が集、若者は都会、
3	4 地元の人々のために交通を発達させることが大切
4	5 公共の交通手段を観光客に使ってもらうこと
4	6 他県から来た観光客に公共の交通手段を使ってもらうこと、交通の便が良くなり、住民も移動しやすくなり、経済的にも発展がみえると思ふから
4	7 自分自身の考えの根拠を明確にして説明ができたこと

3. 教師力向上実習Ⅱの成果と課題

手立て①、手立て②により、生徒達は様々な視点から資料を多面的・多角的に考察することができた。また、視点カードから得られた視点を中心に資料を読み取り、その結果を根拠として自らの考えを明確に記述し、表現する姿が見られた。

手立て③では、第1～5時で捉えた「過疎化を食い止めるということについて」各生徒が考えたことを発展させる形で「島根県の地域おこしプランの構築」をグループでの学習活動として行うことで、様々な視点からの考えを交流させることができた。そして、過疎化についてより具体的に理解することができ、多くの生徒が自らの考えを深化させることができていた。

手立て④により、生徒はこれまでの活動をどのように生かして最終意思決定を行ったか、自分で振り返ることができた。また、授業者の視点からは生徒が授業の何を学意思決定に生かしたのかを知ることができ、生徒の考え方の道筋を明確に捉えることができた。

手立て①、②で読み取った多面的・多角的視点から得た情報がその授業内で留まり、別時間の授業に生かせなかったことから、多面的・多角的に思考した後の情報を関連させて捉えさせる手だての必要性を感じた。活動③では、グループの意見を集約して1つの大作戦にまとめようとした結果、グループの意見を並べただけになったグループが4つあった。また、「島根県の地域おこしプラン」の発表用ポスターの制作に意識が集中してしまい、最終意思決定の場面で手立て③で得た考えをそのまま流用する生徒がいたことも改善していきたい点と感じた。

V 研究のまとめ

1. 成果

意思決定力を伸長させるには、多面的・多角的に思考し、自らの考えの根拠を明確にもつことが重要となることが分かった。

本研究の成果に、資料を多面的・多角的に捉えることによって生徒が資料から読み取ったことを自分の考えの根拠として表現することができるようになった点が挙げられる。資料の提示の工夫、視点の与え方の工夫を行うことで意図的に生徒の考えを具体的なものにすることができるようになった。

また、生徒達は他者の価値観と交流し、具体的な解決案を考案する活動を行ったことで新たな視点を得られ、最終意思決定で多面的・多角的視点に基づいて自らの考えを深化させた意思決定ができていた。

意思決定を行うことで生徒が自らの考えの根拠を明確に表現できるようになったことが最大の成果である。

2. 今後の展望

実習Ⅰ・Ⅱのどちらでも資料活用についての手立てを設けて授業を行ったが、まだ資料の特徴をつかみきれなかったり、意思決定の場面で資料から読み取った

内容を活用できなかったりした生徒の姿があり、今後も資料活用に関する手立てを工夫し続ける必要性を感じた。また、生徒の経験知に寄り添った資料選択や教材開発の工夫は、より生活と結び付けて具体的な思考を促すことに繋がったため、意図的に具体的な思考を促すためにも視野を広げた教材選択の工夫を行うことが重要と感じた。

本実践では、地理の分野と歴史の分野で授業を行った。生徒の思考を深化させるため、地理、歴史、公民各分野の特徴を生かした意思決定課題の設定も今後実践を行っていく上で課題としていきたい。

以上を踏まえ、今後は生徒たちが社会科と経験知を結び付け、切実性をもって意思決定できる姿を目標に研究を重ねたい。

VI おわりに

実習Ⅰ・Ⅱの最終授業で生徒が書いた授業に対する感想には「本時の意思決定は、自分の考えをしっかりとまとめることができたので良かったと思う」「社会科は暗記だけではなく、『～だった。～だったので～する必要がある』というところまで考えて(略)面白いと思った」等、意思決定の活動の成果をうかがえるものが多くあった。このことから「暗記の社会科」という固定概念を更に崩し、意思決定をはじめとする「思考力・判断力・表現力を伸ばすための社会科」の意識化を図る授業をより多く実践することの必要性を感じた。

今後も、資料を多面的・多角的視点を重視した意思決定力の伸長を目指す社会科授業を行いながら、自らの考えを根拠をもって表現することができる生徒を育てていきたい。そして、社会事象についての知識・理解を深め、自分事として捉え、意思決定に活用することができる授業の構築を目指したい。

—付記—

教職大学院2年間を通して「学校サポーター活動」「教師力向上実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「特別課題実習」「多様なフィールド実習」において、多くの学校及び職場で、様々な活動や実習をさせていただきました。多忙の中、多くのご指導・ご助言をいただき、お世話になった先生方や、連携協力校での学びの場を与えてくださった先生方に心から感謝申し上げます。この2年間で学んだことを糧に、今後も努力していく所存です。改めてお礼をお伝えしたいと思います。

＜引用・参考文献＞

- (1)文部科学省『中学校学習指導要領第2章第2節 社会』2008
- (2)教育課程企画特別部会『教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)』2016 p.12
- (3)文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号)【概要】』2017 p.5-6
- (4)渡辺『意思決定の力がつく問題解決学習』2000 明治図書 p.26-27
- (5)渡辺『施設型の新しい問題解決学習』1999 明治図書 p.12-13
- (6)小原友行『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン 中学校編』2000 p.12-13
- (7)魚住忠久、山根栄二『21世紀「社会科」への招待』学術図書出版社 2000 p.219-221
- (8)六角英彰『意思決定学習の考え方・進め方』2015 中部日本教育文化会 p.56-57
- (9)再掲 文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号)【概要】』2017 p.132
- (10)『中学校社会歴史 未来をひらく』教育出版 2017 p.106-107
- (11)再掲 『中学校社会歴史 未来をひらく』教育出版 2017 p.106-107
- (12)写真3点 『アドバンス 中学歴史資料』2017 帝国書院 p.88-89
- (13)再掲 写真1点 『中学校社会歴史 未来をひらく』教育出版 2017 p.113
- (14)『中学社会地理 地域にまなぶ』教育出版 2017 p.174
- (15)石見交通HP バス時刻表
- (16)名古屋市交通局HP バス時刻表
- (17)吉野ヶ里歴史公園 公式HP